

第3部 FAQと質疑応答

FAQ(1)

IID, Inc.

■ 日本企業のユーザビリティ活動の水準は？

- 日本は「黎明期」以前が多い。
- 欧米は「揺籃期：前期」以降と推定される。

レベル	主な活動内容	ユーザビリティ専門家の役割
原始期	デザイナー / エンジニア任せ 各種ガイドラインの参照含む	参加していない
黎明期	製品リリース前に最終チェックとしてユーザテストを実施	テストのみ
揺籃期	前期：プロトタイプを使ってユーザテストを実施 後期：プロトタイプとユーザテストを繰り返す(反復デザイン)	設計段階から参加
躍動期	ユーザ訪問やインタビューを実施して、シナリオやワークモデルを開発する	企画段階から参加
拡充期	リリース後の製品の利用状況について追跡調査を実施	製品ライフサイクル全体
完熟期	ユーザビリティ知識管理データベースを構築	全社の品質管理活動

FAQ(2)

IID, Inc.

■ UCDを導入するには？

- 社内で人材を育成する。
 - ユーザビリティエンジニアリングの基礎教育を受ける。
 - 模擬プロジェクトから始めて、経験を積む。
- 社外のユーザビリティエンジニアに参加してもらう。
 - コンサルタント会社から派遣を受ける。
 - ユーザビリティエンジニアが在籍している会社と共同でプロジェクトを進める。
- UCDプロセスの一部を外注する。
 - インタビューとシナリオの作成
 - ユーザテスト

2

FAQ(3)

IID, Inc.

■ ISO13407を取得するには？

- 形式よりも実際の活動内容
 - 文書審査ではない(プロセス認証)
 - “成熟度”が問われる
 - 設計チームメンバーのレベル
 - 各プロセスの実行レベル
- 組織的な取り組みが必要
 - 人材の育成
 - 開発プロセスの変更
 - トップマネジメントの理解
- 認証機関
 - テュフ ラインランド ジャパン株式会社
 - www.jpn.tuv.com
- 今のところ、認証例はない。

3